



Форум любителей русского языка

ミーシャ

2005年5月10日 復刊第3号(通号26号) web版
発行: 日本ユーラシア協会北海道連合会・ロシア語委員会
< Хоккайдоская федерация отделений ОЯСЕ >
編集人: 小杉 生奈子 / 題字: 福澤 雪
〒060-0809 札幌市北区北9条西4丁目エルムビル4階
tel: 011-707-0933 fax: 011-707-7567
E-mail: jesdoren@nifty.com
* 希望者には1部250円(送料込)で頒布いたします

ミーシャの庭 МИШИН САДИК

第3回 春を告げるパスハ(復活祭 Пасха)

札幌ハリストス正教会 松平康博司祭に聞く

札幌・福住駅の近くに正教会があるのをご存知でしょうか? 札幌ハリストス正教会は、明治21年札幌に初めて建てられた正教会で、昭和46年札幌オリンピックによる改修工事のため、この福住の地へ移転したものです。正教会とは、正統(オーソドックス)なキリスト教として、本来のキリスト教の教義と典礼を正しく受け継いでいる教会という意味です。現在、カトリック、プロテスタントとともに、キリスト教の一派として知られており、西方のローマを中心としたカトリックに対して、東方正教会ともよばれています。日本の正教会は19世紀にロシアから伝えられたため、さまざまな習慣をロシア正教会から受け継いでいます。ミーシャ3号の刊行がちょうど正教会の復活祭と重なったため、取材を通して、復活祭の様子をレポートすることにしました。復活祭は、キリスト教で最も盛大におこなわれる祭りで、正教会ではパスハとよばれています。イエス・キリストが十字架にかけられたのち三日目に復活したことを記憶するお祭りです。今年の復活祭は5月1日。われわれ編集部が札幌の教会を訪れたのは、復活祭を控えた4月14日のこと、まだ雪の残る教会で出迎えてくださった松平康博司祭は「ロシアのことわざで『パスハが遅い年は春が来るのも遅い』とあるけれど、今年はその通りになりましたね」とおっしゃいました。復活祭はキリストの復活を祝う祭りであるとともに、長い冬が終わり、再び春を迎えられる喜びを感じる祭りでもあるのです。松平司祭に正教会や復活祭のお話を伺いました。

編集部: 復活祭の日はどのように決まるのですか?

ユリウス暦で春分の日の後、満月を迎えた直後の日曜日が東側(東方正教会)の復活祭。カトリックではグレゴリウス暦で決めるので、何年かに1度は、西側と東側の復活祭が一致することがあります。たいてい普段は一週間くらいずれるのですが、今年は両方の日が一番開いているんです。西側は3月27日、東側は5月1日ですから。

編集部: 復活祭までに厳しい断食があると聞きましたが、

大斎といって40日間にわたる厳しい断食があります。肉や魚、牛乳などたんぱく質を断つ。でも正教会の断食は無理のないプログラムになっているのが特徴です。いきなり断食をしては体にさわるので、これに先立ち、2週間にわたって準備期間があります。まずは肉を絶つ週間、次に乳製品を絶つ週間があります。この大斎期間は、聖堂の布や祭服は黒に、蠟燭をともすランプの色も青色にかえられます。

編集部: いよいよ復活祭というわけですが、実際、どのように祭りは進行するのですか?

大斎の最後の一週間が受難週間です。これはキリストの受難を皆が体験する期間。この受難もそうですが、儀式はすべてがドラマ仕立てで行われるという特徴があります。復活祭の前の金曜日はキリストの処刑にあたり、お葬式の祈禱が行われます。キリストのねむりのイコンを担ぎ、聖堂のまわりを練り歩き、埋葬する儀式を行ないます。土曜日には聖堂内の布を白い色に、蠟燭のランプの色も赤に変え、キリストの復活を待つばかり、というわけです。そして、土曜日から日曜日へと日付のかわる真夜中に、大きな十字架を担いで聖堂を3周する十字行が行われ、キリストの復活を願う讃詞・トロパリが歌われるのです。十字行が行われた後、午前4時ごろまで聖堂のなかで祈禱がおこなわれます。信者さんの高齢化のこともあって、ここ何年かの祈禱を昼間やりましたが、夜も捨てがたいですね。夜が白々と明けてきたときに復活の喜びを味わえますから。信者さんたちは、家に祝祭のご馳走を用意して、土曜日の夜から教会に集まるのですが、復活祭にかかせないのが色をつけた卵やクレープ、パスハなどの菓子です。復活祭のあと、ロシアでは「Христос воскрес!」といいながら、色をつけたゆで卵をぶつけあったりするんです。(編集部註: 4月29日に、教会では卵に色付をする作業を行っていました。卵を丁寧に洗って汚れをとって茹でたあと食紅で色をつけます。次に塩酸水につけた丸ペンで、卵の表面に百合の絵や「ハリストス復活」などの文字を描きます。ピンク色に美しく染まった卵は、教会で成聖といってお清めを受けたのち、家に持ちかえります)

編集部: 正教会ではイコンが特別な意味をもつんですね。

カトリックの教会にはキリストやマリアの彫像があるけれど、正教会にはないでしょう。正教会ではキリストやマリア、聖者の像を描いたイコンを通して、神に祈るのです。教会に入って正面に見える壁(イコノスタス)にイコンが描かれています。これはこの世とあの世を隔てる壁でもあるのです。壁の向こう側は至聖所といって祭壇がある天国です。聖職者しか入れません。イコノスタスの中央にある門が王門といって、天国とこちらを行き来する門です。イコンは一枚でも、それを部屋に置くことによって聖なる場所をつくりだすことができるのです。札幌の教会には、イコノスタスをはじめ、山下りん(編集部註: 1857-1939、単身イコンを学ぶためにロシアに留学、帰国後、全国の正教会のためにイコンを描いた女性画家)の描いたイコンが多くあります。日本に正教を伝えたニコライは、日本人に信仰が浸透しやすいように工夫をしました。この正教には欠かせないイコンも、日本人によって描かせるため、山下りんをロシアへ派遣したのです。そして、何よりも正教会の教えは、五感にうったえてくるものなのです。イコンを見て(視覚)、聖歌を耳にし(聴覚)、聖堂で焚く乳香の香り(嗅覚)を感じるなかで祈るのです。

編集部: 正教会では、生神女やイェスなど、聞きなれない言葉を耳にします。

正教会の言葉は、ギリシャやロシアなどの東方正教会の伝統によっているため、ハリストス(キリスト)、イェス(イエス)などギリシャ語・ロシア語で発音するのです。生神女は「しょうしんじょ」と読み、ロシア語の< Богородица 神を生みし女 > マリアのことです。司祭のことは Отец と呼びます。

編集部: 正教会の祭りには、復活祭のほかにどんなものがあるのでしょうか。

復活祭のほかに、十二大祭といって12の祭りがあります。降誕祭(イエスの誕生)から順に、神現祭(イエスのヨルダンでの洗礼)、迎接祭(イエスの宮参り)、福音祭(マリアの受胎告知)、聖枝祭(イエスのエルサレム入城)、昇天祭(イエスの昇天)、五旬祭(イエスの復活から50日目、使徒の上に神からの聖霊が降ったことを祝う)、顕栄祭(イエスの変容)、就寝祭(マリアの永眠)、誕生祭(マリアの誕生)、拳栄祭(イエスの十字架)、進堂祭(マリアの宮参り)となっています。



左: 札幌ハリストス正教会
中央: 卵に字や絵を描く信徒
右: 真夜中の復活祭ミサ

聖なる場所へ

パスハ体験記

桃井富範(ミーシャ編集部・北海道大学大学院2年)

文学はその性質上、例えば思弁的行為を主とする哲学などとは異なり、イデオロギー的な要素を持つとともに、それぞれの土地や共同体、文化、時代などを映し出す鏡ともなりうる。ロシア文学も、その性質上必然的にロシア正教と深い関わりを持っている。端くれながらロシア文学(主としてドストエフスキー研究)に携わるものとして、以前に松平司祭にお話を伺ったところ、「ロシア正教を深く理解しようと思ったら、ドストエフスキーとトルストイの両者を理解しなければならない。正教に対する態度は全く異なるが、そのどちらにもロシア正教の真実が隠されている」というアドバイスを頂いたことが印象に残っている。今回はハリストス正教会で復活祭が行われるということで、司祭の許可を得て、取材をかねて見学へ行ってきた。ところでロシア最大の文学者の1人であるドストエフスキーは有名なベトラシェフスキー事件(註1)の刑罰として4年間の長きにわたる監獄生活を送った経験があるのだが、その時、デカプリストの妻(註2)であるフォンヴィー=ジン夫人から1850年1月にロシア語訳された一冊の聖書を手渡された。彼は流刑後の1854年2月の夫人宛の書簡の中で、「キリストより以上に美しく、深く、同情のある、理性的な、雄々しい完璧なものは何一つないということです。単に、ないというばかりでなく、あり得ないと、こう自分で自分に、激しい愛を持って断言しています。のみならず、もし誰かが私に向かって、キリストは真理の外にある、真正正銘、真理はキリストの外にあると証明するものがあっても、私は真理よりもむしろキリストと共にあることを望むでしょう」と告白しており、その存在は彼の人生と作品を貫き通す最大のテーマの1つとなっている。車で福住に乗り付け、教会の中に足を踏み入れると、そこには聖なる世界が形成されていた。山下りんのイコンや十字架で飾られた聖堂の中には沢山の蠟燭がともされ、香の煙の中で鈍く輝き、キリストのねむりのイコンに向かって信者の人々が熱心に祈り、彼らの歌う復活の賛歌が響く。その中で純白の祭服を着た司祭の姿が一段と輝いていた。ロシアの人々も熱心に祈りを捧げていた。私はその中に混じって写真を撮り、祈りを捧げながら、しかしそれと同時に1つの大きな疑問を感じていた。それはキリストとは何か? という問いだった。キリスト教は、イエスが十字架に掛けられて殺害されるという怖るべき出来事を1つの重要な原点にしている。しかしながら一方でイエスが見事に蘇り、<復活>したことを強調することにより、その怖るべき出来事をのりこえ、キリストの大きな無償の愛を呼びかけ、それを共有することによって愛の共同体を作り上げる(註3)という。しかしながら、そのことは愛の意識と同様に罪の意識をも植え付ける。キリストのように完全な愛を持ってない自己、自己犠牲を貫徹できない自己に劣等感を覚え、過去の過ちを思い出し、罪の意識を刻み込まれる。今まさに復活せんとするキリストの遺骸を前にして、聖なる世界に打ちのめされた異教徒の闖入者は、愛の共同体にも参加しきれぬまま罪の意識に怯えながら、すこすこ俗なる世界に退散して行ったのだ...。

(註1)19世紀、外務省の翻訳官であったベトラシェフスキー邸において、社会主義思想を議論するサークルがあり、ドストエフスキーも参加。1849年摘発、ドストエフスキーを含む21名が死刑宣告を受けるが、死刑直前にシベリア流刑に減刑。(註2)1825年12月14日に起きたロシアの青年将校たちの蜂起。ナポレオン戦争に従軍するなかで、西欧のすすんだ政治・思想にふれた彼らは、帰国後ロシアの救済を願い結社をつくった。のち結社は反乱を企てたが失敗、5名の死刑、120名のシベリア流刑を出した。シベリア流刑の厳罰を受けた将校の妻たちが、貴族の身分を捨てて夫の後を追ひ、シベリアへ向かったことでも知られる。(註3)湯浅博雄『パタイコ 消尽』 現代思想の冒険者たち 第11巻 講談社 1997

第3号のその他の記事

ようこそ、ミーシャの家へ！

第3回 「難しいことには面白いことがたくさんあると思ってください」イーゴリ・カブイトフ さん

ロシア語万華鏡（第3回）

「1から10まで」

虹色小箱

書評「チーフとの恋」リディア・アヴィーロワ著 ワルワラ・ブブノワ絵

小野俊一訳 小野有五解説 未知谷 定価2100円 2005年刊

「人の縁(えにし)のふしぎさに」 童話作家 加藤 多一

これらの記事をお読みにになりたい方は、1部250円（送料込み）で頒布いたしますので、ご連絡ください。